

# 〈東北・新潟の活性化応援プログラム〉 2021年 助成団体活動成果レポート



特別助成団体

## 特定非営利活動法人 はるなか

福島県会津若松市

プロジェクト名

### 会津産漆を活用した、若手職人の生業づくり事業

#### ■地域の課題

NPO法人はるなかでは、16年間ボランティアの手で漆を育て、漆掻きが出来るまでになりました。

会津は漆産業が伝統的に続く全国的な産地ですが、職人の高齢化と後継者の減少から危機的な状況が進んでいます。

#### ■当団体の紹介

15年にわたり団体が保護・育成に取り組んできた会津産の漆の木から漆液を採取。さらに、その漆液を使用し、日本酒と相性の良いお猪口を、20代を中心とした会津の若手漆器職人が制作。地元の日本酒メーカー等との連携により、日本酒とセットで販売することで、会津漆を活用した新たな生業づくりに挑戦します。





## プロジェクトの概要

### ■背景・目的は？

最近、会津漆器技術後継者訓練校の卒業生が増え、今までの産業とは違った仕事の仕方を目指す人が出てきました。

はるなかの漆を使い、会津で育った職人の仕事を生み出し独立の一助にすることで、再び漆産業の産地として残すためにこのプロジェクトを始めました

### ■具体的な活動は？

このプロジェクトに賛同いただきました有限会社 渡辺宗太商店様から、日本酒の頒布会にて販売する500個(100個×5種)の酒器製作をご依頼いただき、酒器のデザインから製作、納品までを若手職人が担当しました。

#### ▼2021年

- ・7月～10月 漆掻き計22日間で、60本の木から約13kgを採取
- ・7月～9月 ぐいのみ5種のデザイン、協議、選定、木地製作
- ・9月～3月 ぐいのみ5種×100個の製作 7名で製作しました。

#### ▼2022年

- ・2月～6月 バンフレット、パッケージ(5種)、商品に添付する個別カード(5種)製作
- ・4月19日 伐木 掻き終えた木を伐り倒し、萌芽更新から15年後にまた掻けるように畑を管理します。
- ・6月 納品

製作担当の若手職人は、個人経営、企業所属、修行中など立場もさまざまで、全員が独立することが目的ではありませんが、仕事を続けていくうえで必要なプロセスを経験できたと話しております。

渡辺宗太商店からは、新しい技術に取り組むチャレンジの姿勢を重視されていたので、その点を特に評価していただきました。

またバンフレット製作では、時間をかけて粘り強く改訂を重ね、満足いく内容に出来たことも評価していただきました。

情報発信についてはInstagramを使い、普段は見られない製作現場を画像で載せ、お客様に届いた酒器がどのようにできているか酒器ごとにハッシュタグ(#)で纏め、どこを工夫したかなど、後からでも楽しんでいただけるようにしました。

新聞では、福島民報に定期的に取材・掲載していただきました。

また、このプロジェクトを中心としたNPOはるなかの活動を、2022年サントリー地域文化賞に選考いただき顕彰されました。



木地磨き



漆精製作業(漆くろめ)



酒器研修(會津酒楽館にて)



拭き漆(漆を薄く塗り拭き取る作業)

## ■活動の成果は？

成果としまして、まずは若手職人がそれぞれ仕事を続けていく上で必要なスキルアップ出来たことが大きいと感じます。

また、渡辺宗太商店様からは、お客様からの反響も予想以上だったことをお聞きしております。

普段漆になじみのない方にも、漆と20~30代の若手職人について興味を持っていただけたと思います。このような取り組みを重ねることで、会津の漆産業も発展に繋がると感じます。

尚、今回納品しました酒器は予定数はほぼ完売したとのことでした。

今回、助成金をいただけたことで、漆掻きの費用も独自資金では賄えなかったことが、若手職人の仕事に繋ぐことまでできました。

酒器の仕事のお話をいただいても、商品にするまでは製作から梱包、パンフレットまでとなると、無理が生じて思うような商品化は難しかったと思います。または何年かの継続プロジェクトとなり、メンバーの入れ替わり等も考えられ、満足いく結果は難しかったと思います。

若手職人それぞれが立場ごとに仕事の全体を把握して進めることが経験でき、自分の担当する仕事の前後を考えるようになったと思います。



ぐいのみ上塗り作業



パッケージ会議



たかつぼぐいのみ完成画像



ぐいのみ梱包作業

## 団体からのコメント

今回のプロジェクトの酒器製作は、すぐではありませんが2回目のお話もいただきました。

酒器製作とは別に、漆を使う仕事をつくり若手職人の仕事をつなげるようにしたいと思います。

現在、フローリング材への拭き漆をビジネスマッチの展示会等で提案しております。

NPOはるなかの漆の木で、漆を掻ける本数はまだ少なく、漆の育つ畑や林を増やす必要があります。漆を掻くには植栽から15年以上かかるため、世代を越えての活動を安定して続けられるようにしていく必要があります。現状では中心メンバーの手が足りず、今後運営にも携わるメンバーを育てることが課題です。

畑の草刈り等の手入りに、参加者が多いことは準備にも人手がかかります。人手が必要ないところは数人で行うことや、ほかの漆を育てているグループとの協力体制を作るなどして、ボランティアとして続けられるようにしたいと考えています。